

皆さま、こんにちは。

日本高等学校教職員組合第120回の定期大会にご出席いただきありがとうございます。日高教で中央執行委員長を務めております、栃木高教組出身の吉川正智と申します。定期大会の開催にあたり、日高教を代表してご挨拶申し上げます。

コロナ禍も3年目となり、ウィズコロナと言うところで、マスクの着用や手の消毒は当たり前、テレワークも進み、会議においてもリモートが半ば主流となってきました。しかし、感染への不安と生活の不自由さに対するストレスは緩和されてはいません。早く安全・安心した生活に戻ればと思います。本日の定期大会においてもWeb開催とさせていただきましたが、現地開催に劣ることなく、活発な大会になるようお願いいたします。

さて、ロシアによるウクライナ侵攻に関しては、改めて、未だ世界では平和が当たり前ではないと認識させられました。個人として、ウクライナへの金銭的な支援はできるとしても、戦争を止めることまでは難しいです。しかし、教職員として、また親として、子どもたちに「平和の尊さ」、「戦争の悲惨さ」をしっかりと伝えていき、戦争のない世の中が早く来ることを願っています。

日本国内におきましては、自然災害による被害が毎年のように起こっています。日高教は、被災地の早期の復興・再生、そして被災者の方が一日も早く安心して生活することができるよう努めるとともに、全国における安全・安心な教育環境の確保に向け政府、文科省等に対して様々な提言・要望等を引き続き行ってまいります。

教育情勢についてですが、このあとの一般経過報告、議案説明のなかでも触れさせていただきたいと思いますので、私からは、いくつか絞ってお話ししたいと思います。

一つ目として、GIGAスクール構想についてです。皆様方の県、学校では、もう生徒一人ひとりに端末は行き渡っていますでしょうか？小中学校では、すでに昨年度から本格的な活用が始まっています。また、これから高校等も含め活用がさらに進んでいくことと思います。教員としては、また一つ業務が増える部分もあり、組合としては負担軽減のためのICT支援員の拡充などを求めているところではありますが、ICTの活用で、この先、アンケート等の印刷や回収、集計作業などが不要になってくるかもしれません。このように、前向きに捉えながら、活用促進にも取り組んでいただければと思います。

教員の負担以外の心配として、私が感じているのは、デジタル機器を使うことに慣れた人と慣れない人の間の格差も、今後の課題となってくるのではということです。機器の操作が不得意な児童生徒が、それを負担に思い不登校になったり、テクノロジー・ハラスメ

ントの子ども社会への拡大、人の価値がICTを使いこなせるかどうかで決まる世の中になることなどを懸念しています。子どもたちへの視力への影響はもちろんですが、そういった思考や精神的な影響、社会の価値観等についても調査研究が進められることを望みます。

もう一点ですが、教員不足について触れたいと思います。先日、国会で教員免許更新制の廃止が決まりました。課題解消の一助にはなるとは思いますが、大学生など若い世代の教員志望者の増加にどれほど効果があるのかは、不透明です。若者の志望者が減少傾向にある理由として、教員の多忙さや仕事量に対する待遇への反映が少ないことなどがあげられます。教職というのは、人格の育成や児童生徒の成長が見られたり、自分自身が人間的に成長したりと、非常に魅力的な仕事です。しかし、デメリットの方が先行され、敬遠されている現状にあります。学生が学校の先生を志す動機は、親以外の身近な大人としてそばに立ち、助言をくれ、尊敬・信頼ができ、なにより生き生きと仕事をしている姿を見てきたからだと思います。もちろん、今も、多忙ではありますが、生き生きと仕事をされている先生は数多くいます。しかし、疲弊していることも否めません。われわれ教職員組合が教員不足の解消として取り組むことは、処遇待遇の改善、働き方改革の促進であり、そのことにより、教員1人ひとりが充実したライフ・ワーク・バランスを実現できるようにすることだと考えます。これは、組合活動にも当てはまります。組合員が、共同しながら、生き生きと活動していれば、加入促進にもつながってくると考えています。

本日の定期大会は、今年度の日高教の運動方針を決定する最高の意志決定機関です。代議員の皆様には建設的な議論とともに、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。われわれ執行部も、有意義な定期大会となるよう努めさせていただきます。そのことが、組合活動の活性化、発展につながり、取り組みの成果とともに、明るい未来の創造につながると確信しております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。